

今だからこそ知ってほしい 小町紅の魅力

Point 1

発見! じぶん色

桃色。桜色。深紅。オレンジ。

どんな色が
私に似あう色だろう？

小町紅は1色だけ。なのに、唇やお肌にのせると、一人ひとり違う発色です。ベースの色を活かして、似あう色に。

Point 2

サラッと 軽～い感触

唇が素肌のまみたい。

もしかして、マスクに
キスマークがつかない？

油分が入っていないため、気持ちよく伸びて、乾くと色が移りにくいです。[ご注意] マスク内の湿気や水分で色移りすることもあります。

Point 3

なんと 添加物ゼロ

何も足してないの？
ホントに自然のまま？

純度の高さが自慢です。

原料はベニバナの花びらだけ。江戸時代と同じ手作業で、わずかに含まれる赤色を採り出した究極のナチュラルコスメです。

赤は「魔除け」の色

赤色は、「太陽」や「炎」を連想させることから、穢れを焼き払ってくれる色として、昔から神聖視されてきました。社社の鳥居も、赤色ですよ。

江戸時代、赤一色の版画「瘡瘡絵(ほうそうえ)」を身に付け、部屋中に貼っていると、悪い疫病の鬼を追い払ってくれると考えられていました。赤いダルマも流行病を避けられるアイテムだったのです。看病する人もされる人も、赤い着物を着て、お見舞いに行く人は、紅で染めたお菓子を持っていくなど、赤づくしだったそうです。

今こそメイクに「赤」を!!



Point 4

口紅だけじゃ もったいない

チークにも?
アイメイクにも使える?

濃くも薄くもお水加減ひとつ。

江戸時代からマルチパーパスとしては折り紙つきです。目元、頬、耳たぶ、爪や化粧下地にも。



小町紅 桜 / 14,000円 (税込15,400円)

【この件に関するお問い合わせ先】

株式会社伊勢半本店 PR担当 mail@isehan.co.jp

【お客様お問い合わせ先】 株式会社伊勢半本店 (平日: 11:00~15:00)

〒107-0062 東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル2F TEL 03-5774-0296

今だからこそ使ってほしい 小町紅の赤

伊勢半本店は、文政8年(1825年)の創業より製法を受け継ぎ、玉虫色に輝く紅を作り続ける日本で唯一の紅屋です。

伊勢半本店がお届けする日本伝統の化粧料「小町紅」。定番のお猪口型から、携帯に便利なコンパクト型の紅板まで全7点をご紹介します。

日々のご使用にも、特別な日の贈り物にも、シーンに合わせてお選びいただけます。



- (手前から時計回りに)
小町紅 桜
14,000円(税込15,400円)
小町紅 華
15,000円(税込16,500円)
小町紅 撫子に麻の葉
9,000円(税込9,900円)
小町紅 竹に青海波
9,000円(税込9,900円)
小町紅 雪月花(黒・金)
各22,000円(税込24,200円)
小町紅 藤
16,000円(税込17,600円)

小町紅のご使用方法

紅筆または清潔な指に、適量の水をつけ、紅を溶いてお使いください。

小町紅は、水の量と紅を重ねる回数によって、透明感のある淡い桜色から鮮やかな紅色、さらには玉虫色にまで、幾通りもの色合いが楽しめます。

口紅のほか、チークやアイシャドウなどとしてもお使いいただけます。

※ 紅器に余分な水が入り込まないようにご注意ください。(1回5mm角ほどが目安)

ご購入は
こちらから

- ◇ WEB通販
伊勢半本店オンラインショップ
<https://www.isehanhonten.co.jp>
- ◇ 電話通販
TEL:03-5774-0296 (平日11:00~15:00 短縮営業中、土日祝定休)
- ◇ 直営施設
「紅ミュージアム」
(新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑み、当面の間休館)



EDO
TOKYO
KIRARI

東京都が進める「江戸東京さらりプロジェクト」は、江戸東京の伝統ある技や老舗の製品等を新たな視点で磨きをかけ、その価値と魅力を国内外に発信することで、東京ブランドの確立やものづくりの本場・東京の再興、伝統ある産業の魅力向上、技の継承を目指す取り組みです。伊勢半本店は、2018年度モデル事業者に選定されています。 <https://edotokyokirari.jp/>